

「家庭基礎」学習指導案

広島県立広高等学校
教諭 徳永和子

本学習指導案のポイント（高校教育指導課指導主事 松田 百合）

全国銀行協会が作成したカードゲームを活用し、人生の岐路に立つことの多い20代、30代の人生を疑似体験させることで、生涯を見通した家計管理の重要性を感じさせるよう工夫されている。豊富な内容を1時間で実施するための板書・スライドによる指示が適切に配置されている。また、疑似体験の記録を振り返ることによって、自分の人生で重要視したいことを具体的に捉え、主体的に考えさせようとする展開となっている。

- 1 日 時 平成30年11月6日（火） 第5時限（13：10～14：00）
- 2 学年・学級 1年5組32名（男子：17名、女子15名）
- 3 単 元 名 「経済生活を営む」（経済的に自立する：ライフプランを考える）
- 4 研究テーマ 「コンピテンシーを育成・活用する授業の工夫」
- 5 単元について

（1）単元観

本題材は、高等学校学習指導要領家庭「家庭基礎」内容（2）エ 消費生活と生涯を見通した経済の計画 を踏まえて設定したものである。

生涯を見通した経済の管理や計画について、高校卒業後のライフプランに基づいて考えられるようになること、収支のバランスを考えながら経済生活が送れるようになることを目標とする。

（2）生徒観

対象クラスでの事前アンケートでは、大学等進学先の学費について関心のある（知っている）生徒は約半数、将来一人暮らしをしてみたい生徒は22人とクラスの約7割を占めている。

本クラスは物静かで落ち着いた生徒が多い。授業のグループワークにおいても、静かな雰囲気ながらも積極的に取り組む。グループ内でスムーズに意見をまとめるなどコミュニケーション力の高い生徒が多い。

（3）指導観

本校では、大学進学を機に一人暮らしを始める生徒が約半数いる。このことから、多くの生徒が約2年後には自分で日常の家計管理をすることになると考えられる。家計管理、ローンとクレジットについて学んだ後、それらの知識等をもとに、将来の生活をシミュレーションする模擬体験を取り入れ、将来の生活設計と家計管理のイメージを具体化し、将来消費者として主体的に適切な判断ができるよう指導する。その際、大きく生活が変化し、本当の意味での自立をしていく20歳代や、結婚や子育てなど自分を取り巻く環境が大きく変化する30歳代の家計について特に着目させたい。

6 単元の目標

経済的に自立に向けて、消費生活の現状と課題や消費者の権利と責任について理解させ、適切な意思決定に基づいて行動できるようにするとともに、生涯を見通した生活における経済の管理や計画について考えることができるようにする。

7 単元の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
・消費生活および消費者問題に関する諸問題について関心を持ち、その改善のために主体的に取り組もうとする態度を身に付けている。	・消費生活および消費者問題の解決を目指して思考を深め、適切に判断や自分の考えを表現している。	・消費生活および消費者問題に関する事例を収集・整理することができる。	・消費生活および消費者問題に関する基礎的・基本的知識を身に付け、それらを場面に応じて適切に活用する方法を理解している。

8 単元の指導と評価計画

次	学習内容	評 価					評価方法
		関	思	技	知	評 価 規 準	
1	家計管理 (1時間)		○			・家計に関する基本的な内容について理解し、収支のバランスが考えられる。	ワークシート
2	ローンとクレジット (1時間)				○	・ローン、クレジットの仕組みを知り、それらのメリット・デメリットについて理解している。	定期考査

3	ライフイベントと家計管理 (本時)	◎			・シミュレーションゲームでライフプランの模擬体験を通して、将来の家庭経済に関心を持ち、自分の家計について主体的に考えようとする意欲を持っている。	行動観察 ワークシート 定期考査
4	多重債務 (1時間)	◎		○	・多重債務問題について理解し、返済計画の重要性について考え、多重債務に陥らないためのアドバイスをまとめ、表現している。	ワークシート 定期考査
5	消費者トラブルと消費生活のまとめ (1時間)			◎	○ ・消費者被害にあわないために、トラブルの種類とその手口について理解する。 ・現代の消費者問題について、様々な事例を収集・整理することができる。	ワークシート 定期考査

9 本時の展開

(1) 本時の目標

ライフイベントに関わる収支についてシミュレーションすることで、生涯を見通した経済計画への関心を高める。

(2) 観点別評価規準

ライフイベントとそれに必要となるお金について関心を持ち、生涯を見通した経済計画について考えようとしている。

【関心・意欲・態度】

(3) 準備物

教科書、ワークシート (個人・グループ)、マネープランゲーム、電卓、色鉛筆、パソコン、プロジェクター、ホワイトボード

(4) 学習の展開

	学習活動	指導上の留意点 (◇) (◆「努力を要する」状況と判断させる生徒への指導の手だて)	評価規準 (評価方法)
導入 5分	1 本時の学習内容と目標を理解する。 2 本時の使用教材を確認する。	◇これからの人生で必要になるお金について、何にいくら必要なのかを疑似体験することを伝える。この授業を通して、人生の資金計画を立てる大切さについて考えてもらいたいことを伝える。 ◆わかりにくい語句の説明はホワイトボードに書き示していることを伝える。	
展開 40分	3 マネープランゲーム ①役割分担 ②20歳代の人生シミュレーション ③20歳代のまとめ ④30歳代の人生シミュレーション ⑤30歳代のイベント & アクシデント ⑥30歳代のまとめ ⑦20歳代、30歳代のまとめ	(スライドにより、シミュレーションを進めていく) ◇役割分担の説明と分担決め (1分程度) の後、席移動。 ◇収入、支出、自動車の購入の順に進めていく。 ◆非消費支出について再確認する。 ◇20歳代は自立・独身時代だったので、収入を自由に使える部分が大きかったことを伝える。 ◇30歳代のライフイベントの多さと、「楽しみの先取り」について実感させる。 ◇保険の重要性について知らせる。 ◇30歳代に必要となった金額について考える。 ◇20歳代、30歳代のまとめとして、理想とする人生となったかなど、班で話し合う。 ◆計算を間違わないよう、グループのメンバー全員で確認しながら進める。	人生のシミュレーションを通して、若い世代のイベントとそれに必要となるお金に関心を持ち、自分の将来の経済計画について考えようとしている。 【関心・意欲・態度】 (ワークシート)
まとめ 5分	4 本時の内容を振り返る。(5分)	◇将来の生活や人生について経済面から振り返らせるとともに、自分の人生で優先させたいものについて考えるきっかけとさせる。 ◇感想・疑問点をワークシートに記入させる。	

(5) 本時の評価基準

※ワークシートの記述から読み取る。

	関心・意欲・態度
A (十分に満足)	ライフイベントに必要な金額について関心を持ち、自分の生涯を見通した経済計画等について考えてみようという意欲を持っている。
B (おおむね満足)	ライフイベントに必要な金額について関心を持っている。 シミュレーションにおける生涯の経済計画に関心を持っている。
C (努力を要する)	ライフイベントには多額のお金が必要となることに気付き、関心を持っている。